

平成27年度第2回「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」・
「墨田区子ども・子育て会議」議事要旨

日時：平成27年7月14日（火）午後6時30分～8時30分
会場：区役所131会議室

次 第

- 1 開会
- 2 議題

議 題	資料
(1) 新任委員及び事務局異動者の紹介【全体会】	資料1
(2) 事業計画における評価指標及び各事業の検証方法について【全体会】	資料2
(3) 今後、開設予定の新規保育園の利用定員について【全体会】	資料3～5
(4) 平成27年4月における区内の待機児童数について	資料6
(5) ワーキンググループの進め方に関するオリエンテーション【全体会】	資料7
(6) 各ワーキンググループに分かれ、それぞれの検討課題やスケジュールについて議論【各WG】	資料8 資料9
(7) 各ワーキンググループの検討結果の報告【全体会】	
(8) その他【全体会】 ・次期就任予定委員を対象とした事前ガイダンスの実施について	資料10

3 次回開催予定

日 時：平成27年9月18日（金）午後6時30分～8時30分
会 場：曳舟文化センター 2階 レクリエーションホール
主な議題：会長・副会長の互選
ワーキンググループによる課題の検討

4 閉会

配布資料

- 資料1 平成27年度「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」及び「墨田区子ども・子育て会議」委員名簿
- 資料2 墨田区次世代育成支援行動計画 墨田区子ども・子育て支援事業計画における5年後の将来像及び評価指標の検証について
- 資料3 給付対象となるための「認可」と「確認」
- 資料4 新規保育園の利用定員の設定について
- 資料5 平成27年度 保育施設整備状況について
- 資料6 平成27年4月保育施設入所待機児童数について

- 資料 7 平成 27 年度「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」及び「墨田区子ども・子育て会議」各ワーキンググループのスケジュール（案）
- 資料 8 「教育・保育の向上をめざして」
～平成 27 年度に予定されているプロジェクトの概要および進捗状況～
- 資料 9 平成 27 年度第 3 回「墨田区子ども・子育て会議」「乳幼児ワーキンググループ専門委員会」議事要旨
- 資料 10 次期就任予定委員を対象とした事前ガイダンスの概要
- 参考資料 子育て支援ネットワークに関する他自治体の事例（千歳市、上田市、和光市、尼崎市）
- 参考資料 曳舟文化センター案内図

出席者（敬称略）

委員

- 大豆生田 啓友（玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授）
- 野原 健治（興望館館長）
- 高嶋 景子（田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科准教授）
- 長田 朋久（横川さくら保育園長）
- 西島 由美（にしじま小児科院長）
- 杉浦 浄澄（江東学園幼稚園副園長）
- 服部 榮（社会福祉法人 雲柱社理事長）
- 伊丹 桂（文花子育てひろば施設長）
- 野口 悦子（主任児童委員）
- 相澤 しのぶ（立花吾嬬の森小学校 PTA 会長）
- 佐瀬 一夫（中学校 PTA 連合会会長）
- 内田 淳（青少年委員協議会委員）
- 森 八一（青少年育成委員会連絡協議会副会長）
- 小菅 崇行（小菅株式会社代表取締役会長）
- 佐藤 まり子（ムーミン保育室施設長）
- 賀川 祐二（NPO 法人 病児保育を作る会代表理事）
- 貞松 成（株式会社 global bridge 代表取締役）
- 佐藤 摩耶子（公募）
- 荘司 美幸（公募）
- 多胡 晴子（公募）
- 徳野 奈穂子（公募）
- 福田 三加代（公募）
- 近藤 ゆき江（八広幼稚園長）
- 保坂 登（緑小学校長）
- 田谷 至克（寺島中学校長）

< 欠席委員 >

- 金子 里美（NTT 労働組合東京総支部執行委員）
- 本多 美絵子（両国幼稚園副園長）

青塚 史子（八広保育園長）

< 傍聴 >

1名（女性1名）

課長出席者

石井 秀和（子育て支援担当部長）、岩佐 一郎（教育委員会事務局参事【教育委員会事務局次長代理】）、池田 善久（厚生課長【福祉保健部長代理】）、中尾 清美（本所保健センター係長【保健衛生担当部長代理】）、小倉 孝弘（子育て支援課長）、杉崎 和洋（子ども課長）、村田 里美（子育て支援総合センター館長）

事務局出席者

柿畑・坂田・岩崎・藤井・浦辺・田村・戸村・酒井

事務局(株)地域総合計画研究所)

佐々木、片野

1 開会

会長	これより開催する。
事務局	委員の出席状況について、現時点で28名の内、過半数以上が出席しており、定足数を満たしているため、会議は有効に成立している。傍聴者の出席、記録用の写真撮影と録音を了承願いたい。 また、前回の平成27年度第1回の会議記録を委員に配布し、特段、修正等の意見がなかったため、議事録として確定している。

2 議題

(1) 新任委員及び事務局異動者の紹介

事務局	（資料1について説明） （相澤委員、佐瀬委員より挨拶） （異動となった事務局の関口、鈴木、石井、杉崎より挨拶）
-----	---

(2) 事業計画における評価指標及び各事業の検証方法について

事務局	（資料2について説明）
会長	28年度中に必要な調査を行ってデータを収集し、墨田区の子育て支援にどう活かされていくのかを検証するものであるが、今すぐに決めることではないため、これから何らかの提案やたたき台を出していきたい。意見があれば事務局までお願いしたい。

(3) 今後、開催予定の新規保育園の利用定員について

事務局	（資料3～5について説明）
委員	育児休業明けのことを考えると、0歳児の定員を絞り、1歳児の定員を増やすなどの段階的な方法を考えるべきではないか。

会長	育休が取れる人たちには、0歳で入れないと育休明けに入れないと不安に思う人が増えているのではないかと。昨年度、事務局や委員が説明会を行い、意見として把握している。
事務局	0歳児を絞って1歳児の枠を増やすことも一つの案であるが、現状では資料にある定員の配分となっている。
委員	本当は1歳から入れたいが、0歳から入れているという話を聞く。本来なら育休明けの1歳の時に入れるようにすべきではないか。子連れで出勤している母親も実際にいる。
委員	昨年度の新制度の説明会にて、本当はもう少し家で子どもを見たいが、0歳で入れないと保育所には絶対に入れたいという母親の話をどこでも聞いた。ただし、0歳から入れたいというわけではない。
委員	昨年度の乳幼児ワーキング（以下、WG）において、1歳児の枠を多く確保するとしていたが、計画と実態を確認しながら進めていくことができればよい。
事務局	今後、事業者と協議する機会もあり、年齢的な部分は事業者と相談していきたい。
会長	小規模保育を充実していくと2歳から3歳に上がる時の壁が出てくる。そのようなことを視野に入れて考えていくことも重要である。
事務局	小規模園では連携園制度を設けており、また、ポイントを多く配分している。
委員	小規模園に行っていた子どもは、新規園の開設や定員拡大により3～5歳は解消されているが、新規開設のピークが過ぎた時に人数のアンバランスが生じるのではないかと。
会長	実態を踏まえながら、次の計画に活かしていく必要がある。
委員	<p>育児休業明けの入りにくさは感じている。育児休業が1歳半までしか取れないことと、保育園は4月のタイミングでなくては入れないという2つの視点からすると、どうしても0歳で入れてしまわないといけないということになる。</p> <p>3歳までの育児休暇取得が確立され、年度途中でも保育園に入れる状況であれば、ニーズは変わってくるだろう。今は絶対数が足りない状況にあり、結果的に、定員数を増やすことが課題であろう。</p>

(4) 平成27年4月における区内の待機児童数について

事務局	（資料6について説明）
委員	26年度は、認証保育所に入っていれば待機児童としてカウントされていなかったが、今年度は認証保育所が新制度から外れたため、待機児童としてカウントされているのか。
事務局	認証保育所の扱いは変わっておらず、認証保育所に入っていればカウントされない。
会長	今後も同じか。
事務局	今後は変更もありうるかもしれないが、国からの通達では現在の形になっている。
会長	所沢市の育休退園のことが話題になっているが、墨田区ではどうか。
事務局	所沢市の事例の場合、例えば、2番目の子どもが生まれた場合、1番目の子どもが3か月後に退園ということだったが、墨田区ではそのような取り扱いは行っておらず、育休取得期間中も在園を認めている。

(5)ワーキンググループの進め方に関するオリエンテーション

事務局	(資料 6、資料 7 について説明)
会長	これからグループに分かれて WG を始める。

(6)各ワーキンググループに分かれ、それぞれの検討課題やスケジュールについて議論

<乳幼児ワーキンググループ>

委員：会長、高嶋委員、長田委員、西島委員、杉浦委員、伊丹委員、佐瀬委員、佐藤(ま)委員、
賀川委員、貞松委員、佐藤(摩)委員、荘司委員、多胡委員、徳野委員、近藤委員
子ども主体の協同的な学びプロジェクトについて

会長 委員	(資料 8、資料 9 について説明)
委員	アドバイザーは変更することはないか。
会長	変更することはない。
委員	年長クラスが活発で充実している活動の様子が保護者として伺える。良い取り組みを行っているため、たくさんのクラスや園へ波及できれば良い。
委員	年長クラスの先生だけに限らず、園内でも共有されている。公開保育や発表会によって、今後は墨田区全体に広がって行けるようにしていければと思う。
委員	保育士全員が同じ意識で働いているわけではないと思われる。質の向上からすれば、意識に欠ける保育士をどうフォローや指導していくのか。
委員	保育の手法は多種多様にあり、現在の保育は最良の策である。意欲がない場合は問題だが、意欲がある保育士に対しては、その職員の課題を見つけて対処いきたい。
会長	保育士の人材不足の問題もあるが、先生や子どもたち、親にとっても良い影響が出れば良い。先生たちにも手ごたえがあり、子どもたちの育ちが楽しくなり、園内、園外に広がっていく可能性もある。この取り組みは、保育士が子どものことについて語る仕組みでもある。
委員	周りから見ると、先生はとても忙しいように見える。先生に対するフォローが必要であり、先生たちの負担にならないようにしていただきたい。みんなで向上していけるような雰囲気を作り出すことが必要だろう。
委員	保育士も精神的に悩みながら考えながら、試行錯誤している。一方で子どもたちと対話しながら行っていき楽しさを感じている先生も増えている。毎日の業務をこなすだけで精一杯になってしまう場合もあるが、子どもたちのために何かやりたい気持ちがある。
委員	今回は、小学校への接続を考えて5歳児に設定した。子どもたちは来年の春から一方的に授業を受ける立場にある。このまま子どもたち主体で進めてしまうことで、小学校に行ってきたと授業を受けることができるのかという疑問はないか。
委員	学びは本来、主体的なもので、授業形態を取ったとしても、自分の事として学びや学習につなげていく能力が必要であり、問題はないだろう。
委員	親からのクレームがあった場合、これまでは個別的な対応だったが、園の中で問題を共有してほしいという思いもある。親の考えも変わる必要はあるが、親への説明も考えて行わないといけないだろう。
委員	子どもたちがどのようなことを学んでいるのか、定期的に発信していくことにしてお

	り、保護者の理解を得られるだけでなく、その理解を良い方向へ変えていくきっかけになるのではないか。
委員	保育の質を高めるためにいろいろな活動をしていることを、園から保護者に伝えている。さらに連絡帳などを通じて、担任から保護者に情報が発信されていることで、理解が深まっているのだろう。現場の先生の言葉に一番説得力がある。
委員	先生も勉強して楽しいと感じる環境づくりも大切である。発表会が目的ではなく、先生たちがどのように学び合いを進めていくかが大切である。
会長	これまでのような一方的に教える学習方法ではなく、今は 21 世紀型の問題解決型の学習方法、アクティブ・ラーニングに切り替わっているため、小学校の先生にもこの会議に参加して欲しいと感じている。
委員	法人内での人材育成が必要になる。この取り組みは OJT を行っていくことだろうが、どのように行っていくのか、保育士のやる気を出して、もっと良くなっていくことは大切だが、どうやってシステム化して広げていくかが課題だろう。
委員	まだ始めたばかりのため、いろいろと検討しながら進めていきたい。

子育て支援ネットワークづくりについて

委員	4 つの市町村の事例を踏まえながら、墨田区ではどのような子育てネットワークを作っていくかについて、今年、議論していきたい。
会長	子育て支援ネットワークには 2 つの視点がある。1 つは、妊娠、出産からその後までを含めた切れ目のない包括した支援であり、墨田区ではどのような体制を作るかということになる。もう 1 つは、当事者や市民がどのように関わり、市民のネットワークを作っていくのかということである。 利用者支援には 3 つあり、1 つ目は保育コンシェルジュのようなものである。2 つ目は全ての子育てに関する相談で、役所に行かない人に対する相談である。3 つ目は、母子保健で、ネウボラのようなものである。 それぞれが行っている事業がどのように連携をしていくかが課題である。
事務局	支援センターではすでに事業を行っており、子どもに関する仕事をしている人のゆるやかなネットワークづくりをしていこうという動きも出ている。ただし、ネットワークができ過ぎると分かりにくくなる。既存のネットワークの拡大や、すみ分けの整理をした方が良いのではないか。 母子保健も支援センターに保健師がおり、母子手帳を発行している。利用者支援の相談の部分では、支援センターと児童館が拠点となって行っている。また、指定管理者の事業者に向けて「相談対応」「社会資源」の研修を行っているし、センターの保育士が巡回して相談にも乗っている。
会長	そうすると、ここで検討するのは何かということになる。
委員	ネットワークは個人情報での共有ではない。たくさんのネットワークがあっても全体で見られる人、コーディネートする人がいればよいのではないか。 第一子を生む際の保健センターにおいて、子育てが楽しいと思える仕掛けがあればと思う。妊娠から出産における支援も大切だろう。
委員	乳幼児健診で一番大切なのは、母親をどこかのネットワークにつなげることであるが、どのようなネットワークがあるのか分からない。また、ネットワークに関わりたくない人や、そこからこぼれ落ちた人をどのように救い上げるか、その入口が必要だろう。

委員	ネットワークは必要ないと思っている母親が問題なのではないか。
委員	一番役に立ったネットワークは町会の子ども会で、夏休みなどにチラシがポスティングされていて、少しでも参加してみようかという気持ちになる。町会などの組織でも子育てを包括できたらよいのではないか。いざという時に、誘ったり、手を差し伸べたり身近な人を作りだすことが大切だろう。
会長	実際のところ、町内会や子ども会にすら参加できない人もいるだろう。
委員	保護者にも3つのタイプがあり、積極的にネットワークに参加できる人、ゆるやかに参加できる人、まったく関わりを持たない人に別れ、それらを包括して支援できるネットワークがあればとの話だった。 今回は出された課題に合わせて議論をしていきたい。地域で大小問わず、既存のネットワークをどう活用していくかを議論していきたいし、子育てに関するネットワークの情報を集めてきてほしい。

<学齢ワーキンググループ>

委員：野原委員、服部委員、野口委員、相澤委員、森委員、小菅委員、福田委員、保坂委員、田谷委員

委員	これまで、高学年も含めた学童クラブのあり方や質の問題、障害を持っている児童への学童クラブ、放課後子ども総合プランをはじめとした放課後子ども教室、学童クラブや児童館の連絡協議会をはじめとした横の連携のネットワークや研修、放課後子ども総合プラン(以下、総合プラン)を運営する会議、ワークライフバランス等について検討してきた。 本日は、学齢WGで今後1年間、何を議論していくかを検討していきたい。
委員	これまで学童クラブ、放課後子ども教室、児童館など放課後の子どもの過ごし方や、ワークライフバランスについて検討してきた。
委員	墨田区内の校庭開放の状況はどの程度か。
事務局	各自治体で実施方法が異なるため、一概に比較はできないが、高いレベルではないと思われる。
委員	放課後子ども教室や校庭開放は地域によって格差があるが、それを総合プランでどのように運営していくかが問題になるだろう。保護者が見守っている今のような形での校庭開放は難しいだろうし、学童クラブの活用やシルバー人材の活用も考えられ、ネットワークが重要になってくる。
委員	学童クラブ、放課後子ども教室、児童館の三位一体で子どもの安全安心を進めていくとしたのが学齢WGの方向性であった。ただし、今はバラバラであり、都では総合プランの内容が発展している。墨田区でもしっかり行っていけば、安全安心は可能になるだろう。
委員	委員になってから2年たったが、あまり変わっていない。今後、具体的に良くなってくような議論を期待したい。
事務局	総合プランを進めるにあたり、墨田区では児童館において総合プランの理念は既に生かされている。その中で、学校での取組はまちまちだが、学校における総合プランの進め方を早急に議論したい。今後、9月に一部についてでも一定の方向性を定め、その部分を来年度予算に乗せていきたい。事務局で案を作り、それに意見をいただく形で進めさせてもらいたい。
委員	事務局案はどれくらいで出てくるのか。
事務局	次回の会議には諮りたい。

委員	9/18の親会議の前に学齢WGを入れるとすると、1回必要か、2回必要か。
事務局	必要に応じて複数回可能だが、来年度予算に乗せる部分だけでも早急をお願いしたい。
委員	現時点で想定しうる内容はどのようなものか。
事務局	学校によって近くに学童クラブや児童館があるかどうかの状況が異なるため、現在の学校や学童クラブを取り巻く状況を類型化してデータを示した上で、早急に対策を講じる学校について提案したい。
委員	現在、校庭開放で問題となっている時間は、平日の午後3時半から5時である。この時間帯は教員での対応は難しく、保護者による見守りも難しい。見守りをできる人が少ない。どのように対応していくか、どこも一生懸命考えている。
委員	2回くらいWGでの議論は必要ではないか。
委員	区内の学童クラブをうまく活用しながら総合プランを進めていく可能性があるのではないか。
委員	総合プランの実効性について議論はあったが、国の基本方針をうまく取り込みつつ対策を検討できないか。無理があってもどこまでできるのか、案を提案してもらい進めていければよい。
事務局	施設には限りはあるが場所は作らなければいけない。たたき台を教育委員会と担当課で詰めて、提案したい。まずは担当レベルで詰めた。 現在、協議は始めており、一定程度詰められた内容を提案したい。計画書56ページにある「(仮)放課後子ども総合プラン運営委員会」(以下、運営委員会)を設置して、担当課と外部委員で詰めていきたい。野原委員にもこの委員会に加わっていただきたい。
委員	事務局で案を作成し、運営委員会で詰めて、学齢WGに提案されるという流れになる。
委員	運営委員会は事務局と一部の委員で検討していくが、地域で格差があるため、将来的には各地域で運営委員会を設置し、詰めていく形が望ましく、全体で議論してもあまり意味がないと思われる。
委員	総合プランを前進させるためにひとまず運営委員会を作るとのことだが、どのような会議になるのか等について議論する必要があるのではないか。
事務局	来年の本格的な設置に向けて検討していきたいが、現時点では来年度予算にかかる部分について検討していきたい。
委員	この運営委員会を作らなければ前には進まないのか。一段落した後、正式な運営委員会について議論することは可能か。今回は総合プランを前進させるための暫定的な運営委員会であり、そこで検討し、学齢WGに提案するということが。
事務局	最後、運営委員会については検討していただくことは可能である。また、来年度予算に関する流れとして、今回はそのような形を想定している。ゼロベースからだと時間がかかるし、事務局と地域の代表者でたたき台を作り、学齢WGで意見をもらい、さらに良いものにしていきたい。
委員	今回は来年度予算に関係する部分について暫定的に運営委員会を作り、そこでたたき台を作成し、学齢WGで1回か2回議論し、その上で9月18日の親会議に諮るということでいかがか。(特に意見なし) では、そのような形で進める。学齢WGは8月下旬と9月上旬となるだろう。
事務局	今回は来年度予算にかかる部分に限定する暫定的な運営委員会で、9月～10月を過ぎた頃に、正式な運営委員会について議論し、設置に向かっていきたい。

委員	その他、総合プランの運営委員会のあり方について、質を上げるために研修等について、学童クラブ等の連携についての3つが主要な検討テーマとなるだろう。
委員	学童クラブが学内にある場合、子どもからすれば朝から晩まで長時間、学校にいることになり、学校が終わった放課後に気が緩むことがあるが、それは容認されると考えている。児童館と連携して、小学校の学童クラブに在籍している子どもが児童館へ行くなど、場を変えることにより、子どもたちの気持ちも良い意味で変わるだろう。学校と学童クラブ、児童館が連携すれば放課後の子どもたちの過ごし方が充実していくだろう。
委員	学校以外の第3の場が必要だろう。
委員	今後も勉強しながら議論に加わっていきたい。
委員	人材は、地域の中にも色々な方がおり、選択できる部分はあるだろう。

(7)各ワーキンググループの検討結果の報告

委員	(上記、乳幼児WGでの検討内容を説明)
委員	(上記、学齢WGでの検討内容を説明)

(8)その他

事務局	(資料10について説明)
会長	質問等はあるか。(特に意見なし)

3 次回開催予定

事務局	次回は9月18日(金)午後6時30分より、曳舟文化センターにて行う。主な議題は会長と副会長の互選と、ワーキンググループによる課題の検討を予定している。
会長	以上で、閉会とする。

以上